英文法 L01 第 23 講 should・ought to・had better

学習目標

助言の強さと動詞の形を根拠に、should・ought to・had better の基本表現を選ぶことができる。

助言を表す 3 つの表現

相手に何かを勧めるときは、should・ought to・had better を使うことができる。これらは「〜したほうがよい」という助言を表すが、形と使われ方には違いがある。

should は、相手にとって望ましい行動を勧める基本的な表現である。**ought to** も基本的な助言を表し、should と同じ場面で使えることが多い。

had better は、助言に従わないと困った結果になるような場面でよく使われる。具体的な状況によっては、should や ought to よりも強い注意や切迫感を伝える。

ただし、助言の強さだけで 3 つの表現を機械的に区別できるわけではない。同じ場面で複数の表現が使えることもある。

3 つの表現の形

should の後ろには動詞の原形を置く。動詞の原形とは、主語や時制によって形を変える前の基本形である。

ought to では、ought の後ろに to を置き、その後ろに動詞の原形を続ける。had better も、better の後ろに動詞の原形を置く。had better の had は、この表現の中では過去の出来事を表すものではない。

表現	肯定形	否定形
should	should + 動詞の原形	should not + 動詞の原形
ought to	ought to + 動詞の原形	ought not to + 動詞の原形
had better	had better + 動詞の原形	had better not + 動詞の原形

否定の助言では、not の位置に注意する。

should not は「〜しないほうがよい」、ought not to も「〜しないほうがよい」という意味になる。had better not は、悪い結果を避けるために「〜しないほうがよい」と強く勧める場面などで使われる。

Pair 1

You should not stay up too late.

あまり夜更かしをしないほうがよい。

Pair 2

You ought not to leave the window open.

窓を開けっぱなしにしないほうがよい。

©ミライコーチング

Pair 3

You had better not miss the last train.

終電に乗り遅れないほうがよい。
3 つ目の文は、終電に乗り遅れると帰宅に困るような状況で使える助言である。

should not の後ろには原形の stay、ought not to の後ろには原形の leave、had better not の後ろには原形の miss が続いている。

基本の助言と、悪い結果を避ける助言

疲れている人に休息を勧めるなら、should も ought to も使える。一方、バスに乗り遅れそうな人にすぐ出発するよう勧めるときには、had better が適している。

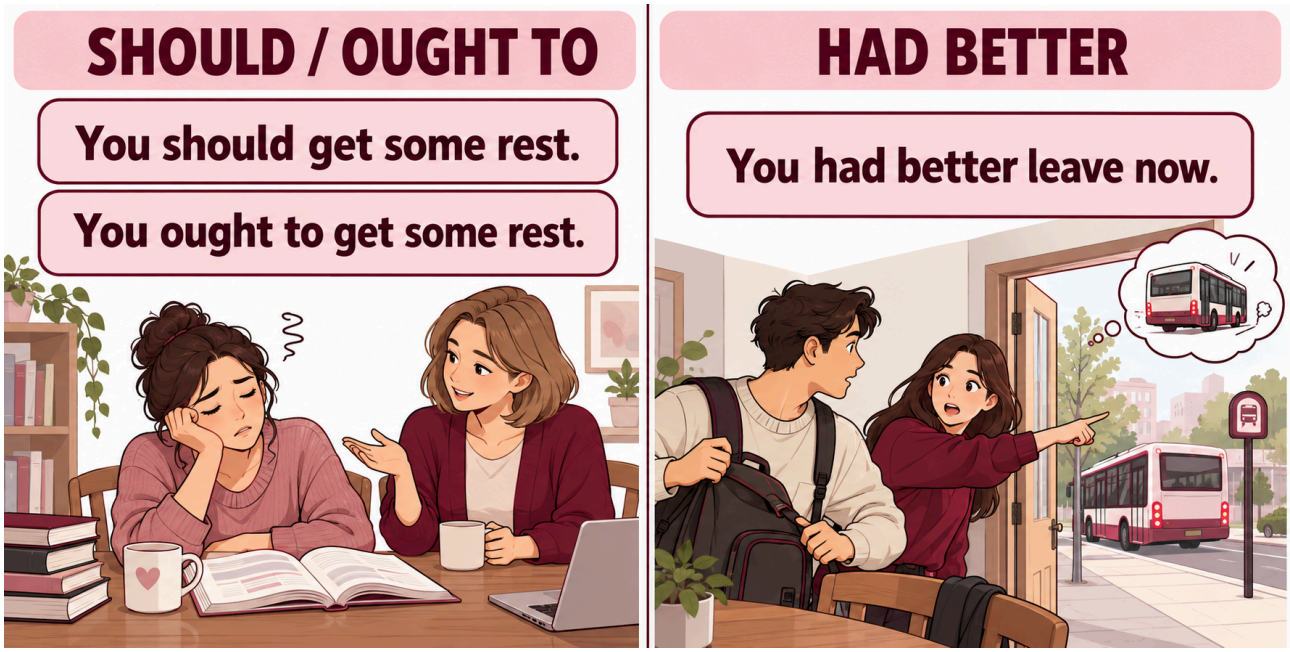


図 1　基本の助言と、悪い結果を避ける助言

Pair 1

You should get some rest.

少し休んだほうがよい。

Pair 2

You ought to get some rest.

少し休んだほうがよい。

Pair 3

You had better leave now.

今すぐ出発したほうがよい。
最初の 2 文は、どちらも相手に休息を勧める自然な助言である。should と ought to の一方だけを正しいと判断することはできない。

3 文目の had better は、バスに乗り遅れないために、すぐ出発するよう強く勧めている。この場面でも should を使うことはできるが、had better を使うと、出発しなかった場合の不都合を意識させやすい。

形と意味を判断する順序

英文の空所を埋めるときは、まず助言の表現と動詞の形を確認する。should と had better の後ろには動詞の原形を置き、ought の後ろには to と動詞の原形を続ける。

次に、肯定か否定かを確認する。否定なら should not・ought not to・had better not の形を使う。

意味を問われたときは、相手に行動を勧めているのか、その行動をしないよう勧めているのかを判断する。悪い結果が具体的に示されている場合は、その結果を避けるための助言かどうかにも注目する。

例題

1

次の文が ought to を使った基本的な助言になるよう、空所に入る最も適切なものを選べ。

You ought ( ) your teacher after class.

A. ask

B. to ask

C. asking

D. to asking

解答・解説

正解：B

ought to の後ろには動詞の原形を置く。空所の直前に ought があるため、to と原形の ask を組み合わせた to ask が必要になる。

Pair 1

You ought to ask your teacher after class.

授業の後で先生に尋ねたほうがよい。

A. ask：本講で扱う標準的な ought to の形に必要な to がないため、不適切。

B. to ask：ought to の後ろに原形の ask が続くため、正しい。

C. asking：ought の直後に ing 形を置いているため、不適切。

D. to asking：to の後ろに ing 形を置いているため、不適切。ここでは原形の ask を使う。

©ミライコーチング

2

次の状況で、had better を使った助言を完成させる。空所に入る最も適切なものを選べ。

The last bus leaves in five minutes.

You had better ( ) now.

A. to leave

B. leaving

C. leaves

D. leave

解答・解説

正解：D

had better の後ろには動詞の原形を置く。leave は原形なので、D が正しい。

最後のバスが 5 分後に出発するという状況では、今すぐ出発しないとバスに乗り遅れるおそれがある。ここでの had better は、そのような結果を避けるための強い助言を表している。

Pair 1

The last bus leaves in five minutes.

最後のバスは 5 分後に出発する。

Pair 2

You had better leave now.

今すぐ出発したほうがよい。

A. to leave：had better の後ろには to を付けず、動詞の原形を置くため、不適切。

B. leaving：had better の後ろに ing 形を置いているため、不適切。

C. leaves：had better の後ろでは、主語が you であることに関係なく動詞の原形を使うため、不適切。

D. leave：had better の後ろに原形が続いているため、正しい。

演習問題

1

次の英文の空所に入る最も適切なものを選べ。

You should ( ) your notes before class.

A. to check

B. checking

C. check

D. checked

2

次の英文の空所に入る最も適切なものを選べ。

We ought ( ) the room before guests arrive.

A. clean

B. to clean

C. cleaning

D. to cleaning

3

次の英文の空所に入る最も適切なものを選べ。

You had better ( ) the front door tonight.

A. lock

B. to lock

C. locking

D. locked

4

should の否定形を使った英文になるよう、空所に入る最も適切なものを選べ。

You ( ) leave your bike in the hallway.

A. should not to

B. not should

C. should no

D. should not

©ミライコーチング

5

次の英文の空所に入る最も適切なものを選べ。

You ought not to ( ) your password with strangers.

A. sharing

B. share

C. shared

D. to share

6

壊れた椅子に座らないよう、had better の否定形を使って助言する。空所に入る最も適切なものを選べ。

You had better ( ) on that broken chair.

A. not to sit

B. don't sit

C. not sit

D. not sitting

7

次の英文の had better が表す意味として、最も適切なものを選べ。

You had better take an umbrella, or you'll get soaked.

A. 傘を持っていったほうがよい。そうしないとびしょぬれになる。

B. 傘を持っていったという過去の出来事を報告している。

C. 傘を持っていく能力があることを伝えている。

D. 傘を持っていくことを禁止している。

8

次の英文の ought to が表す意味として、最も適切なものを選べ。

You ought to thank your neighbor for the help.

A. 助けてくれた近所の人に、すでにお礼を言った。

B. 助けてくれた近所の人に、法律上必ずお礼を言う義務がある。

C. 助けてくれた近所の人に、お礼を言ってはいけない。

D. 助けてくれた近所の人に、お礼を言ったほうがよい。

©ミライコーチング

演習問題の解答・解説

1

正解：C

should の後ろには動詞の原形を置く。check は原形なので、C が正しい。

Pair 1

You should check your notes before class.

授業の前にノートを確認したほうがよい。

A. to check：should の直後には to を付けないため、不適切。

B. checking：should の直後に ing 形を置いているため、不適切。

C. check：should の後ろに原形が続いているため、正しい。

D. checked：should の直後に過去形・過去分詞形を置いているため、不適切。

2

正解：B

ought to の後ろには動詞の原形を置く。空所の直前には ought があるため、to clean を入れる。

Pair 1

We ought to clean the room before guests arrive.

お客さんが来る前に部屋を掃除したほうがよい。

A. clean：ought の後ろに必要な to がないため、標準的な形として不適切。

B. to clean：ought to の後ろに原形の clean が続くため、正しい。

C. cleaning：ought の直後に ing 形を置いているため、不適切。

D. to cleaning：to の後ろが原形ではなく ing 形になっているため、不適切。

©ミライコーチング

3

正解：A

had better の後ろには動詞の原形を置く。lock が原形なので、A が正しい。

Pair 1

You had better lock the front door tonight.

今夜は玄関のドアに鍵をかけたほうがよい。

A. lock：had better の後ろに原形が続いているため、正しい。

B. to lock：had better の後ろには to を付けないため、不適切。

C. locking：had better の直後に ing 形を置いているため、不適切。

D. locked：had better の直後に過去形・過去分詞形を置いているため、不適切。

4

正解：D

should の否定形は should not である。その後ろには動詞の原形を置く。leave は原形なので、D が正しい。

Pair 1

You should not leave your bike in the hallway.

廊下に自転車を置かないほうがよい。

A. should not to：should not の後ろには to を付けず、原形の leave を続けるため、不適切。

B. not should：should の否定形では、not を should の後ろに置くため、不適切。

C. should no：助動詞 should を否定するには not が必要であり、no では代用できないため、不適切。

D. should not：否定の形が正しく、後ろに原形の leave が続くため、正しい。

©ミライコーチング

5

正解：B

ought not to は「〜しないほうがよい」という否定の助言を表す。その後ろには動詞の原形を置くため、share が正しい。

Pair 1

You ought not to share your password with strangers.

知らない人に自分のパスワードを教えないほうがよい。

A. sharing：ought not to の後ろに ing 形を置いているため、不適切。

B. share：ought not to の後ろに原形が続いているため、正しい。

C. shared：ought not to の後ろに過去形・過去分詞形を置いているため、不適切。

D. to share：すでに ought not to の to があるため、さらに to を付けると to が重なり、不適切。

6

正解：C

had better の否定形は had better not であり、その後ろには動詞の原形を置く。したがって、not sit が正しい。

壊れた椅子に座ると危険な可能性があるため、座らないよう強く勧める場面である。

Pair 1

You had better not sit on that broken chair.

あの壊れた椅子には座らないほうがよい。

A. not to sit：had better not の後ろには to を付けないため、不適切。

B. don't sit：had better の後ろに don't を続ける形にはならないため、不適切。

C. not sit：had better not の後ろに原形の sit が続くため、正しい。

D. not sitting：had better not の後ろに ing 形を置いているため、不適切。

7

正解：A

had better は、この文では悪い結果を避けるための強い助言を表す。

後半の or you'll get soaked は、傘を持っていかなかった場合に、びしょぬれになることを伝えている。したがって、傘を持っていくよう勧めている A が正しい。

Pair 1

You had better take an umbrella, or you'll get soaked.

傘を持っていったほうがよい。そうしないとびしょぬれになるよ。

A. 傘を持っていったほうがよい。そうしないとびしょぬれになる：had better による助言と、後半に示された悪い結果の両方に合っているため、正しい。

B. 傘を持っていったという過去の出来事を報告している：had better は、この文では過去の出来事を報告していないため、不適切。

C. 傘を持っていく能力があることを伝えている：能力ではなく、傘を持っていくよう勧める内容であるため、不適切。

D. 傘を持っていくことを禁止している：禁止ではなく、傘を持っていくよう勧めているため、不適切。

8

正解：D

ought to は、基本的な助言を表すことができる。この文では、助けてくれた近所の人にお礼を言うよう勧めている。

Pair 1

You ought to thank your neighbor for the help.

助けてくれた近所の人にお礼を言ったほうがよい。

A. 助けてくれた近所の人に、すでにお礼を言った：ought to thank は過去にお礼を言ったという報告ではないため、不適切。

B. 助けてくれた近所の人に、法律上必ずお礼を言う義務がある：この文は助言を表しており、法律上の義務は示していないため、不適切。

C. 助けてくれた近所の人に、お礼を言ってはいけない：ought to thank は肯定の助言であり、禁止を表していないため、不適切。

D. 助けてくれた近所の人に、お礼を言ったほうがよい：ought to による基本的な助言の意味に合っているため、正しい。